

基準 1 教育理念・目的・育成人材像等

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校は、『専門知識・技術、そして人間尊重を兼備し社会に貢献する人材の育成』を建学の精神として、1895年、福田馬太郎により「製図夜学館」として創立されて以来、一貫して工業社会に人材を輩出する技術者教育の場として運営されてきた。</p> <p>創設者による「知識・技術・精神を備えた、時代が求める技術者を養成する」という教育理念のもと、工業社会黎明期の製図教育から、高度成長期の中堅技術者教育を経て、現代のICT社会や環境重視社会、あるいは技術社会の構造的な変革や入学者の多様化に至るまで、様々な社会的要請に応えるべく、学科編成や教育内容を変遷させつつ今日を迎えている。一方では変わらぬものとして、技術が持つ原理や原則の確実な習得と、それを用いた創意工夫を重視することを通じて、学生個々の資質を生かすとともに、さまざまな工業社会の局面に対応できる、創造性や柔軟性を備えた社会的な適応能力豊かな人材育成を目指している。</p> <p>また、1995年に創立100周年記念事業の一環として校是が制定され、「水随方円自在なり 技沿規矩越時空 人順謙虚通主天」と、本校の教育理念が、柔軟な組織運営や原理に忠実な教育内容、学生・教職員の基本姿勢等の面から、より具体的に補完された。</p> <p>このような教育理念に基づく教育活動をより有効かつ確実なものとするため、中長期的視座で包括的な学校運営方針を「中期計画（3ヶ年計画）」として策定し、具体的な活動計画として、事業計画を年度毎に策定し、実施状況を確認しながら当年度や次年度への機動的な対応がなし得るための、業務活動の整備を進行させている。</p>	

最終更新日付

2019年03月31日

記載責任者

伊東 和幸

1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
1-1-1 学校が教育を行う理念・目的・育成人材像などが、明確に定められているか	5	教育理念として、創設者の建学の精神に由来する「知・技・心」を兼備した人材育成を目指しており、また、「校是」を以って、その教育理念を具体的に補完している。	教育理念等について、学校ホームページ、及び学校案内で明示している。また、創立100周年記念事業の一環として制定された校是を持っている。		学校HP（学校概要） 学校案内（16～17ページ） 100周年記念誌
1-1-2 理念・目的・育成人材像を実現するための具体的な計画・方法を持っているか	5	教育理念・教育方針に基づいた学校運営を事業計画として定めている。	福田学園事業計画（OCT）を策定。また、学生便覧に於いて教育方針・教育目的等を明示している。		福田学園事業計画書（OCT） 学生便覧（14～21ページ）
1-1-3 理念・目的は、時代の変化に対応し、その内容を適宜見直されているか	5	事業計画、及び学生便覧に於いて見直している。	毎年度の事業計画策定時、及び毎年度の学生便覧作成時に改定している。		経年の福田学園事業計画書（OCT） 学生便覧（経年分）
1-1-4 理念・目的・育成人材像等は、教職員に周知され、また学外にも広く公表されているか	5	学内・学外ともに広く公表している。	学校HPや学校案内により学外に公表し、学内（特に学生には）学生便覧を以って説明をしている。		学校HP（学校概要） 学校案内（16～17ページ） 学生便覧（14～21ページ）

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
創設者の建学の精神に由来する教育理念と、創立100周年時の校是が制定されており、学校HPや学校案内、学生便覧を通じて内外に公表している。また、それに基づく中期計画（3ヶ年計画）や事業計画が策定されている。	

最終更新日付

2019年03月31日

記載責任者

伊東 和幸

1-2 学校の特色はなにか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
1-2-5 学校の比類ない 特色として挙げられる ものがあるか	4	<p>創立 120 余年の歴史とその卒業生の活躍。 各産業界（企業）との連携により、専門的且つ実践的なカリキュラムで授業を行っている。</p> <p>また、平成 30 年度には、国が推進する Society5.0 への取組の一環として、文部科学省の委託事業である『専修学校による地域産業中核的人材養成事業（教育プログラム等の開発）』を受託し推進した。【3 か年計画】</p>	<p>1 級建築士試験合格者数（設計製図の試験：学校別）。 校友会組織の活動。 各種設計競技の受賞歴。 文科省より職業実践専門課程の認定を受けている。 （建築系 6 学科・機械系 1 学科）</p> <p>左記は「コネクティッドホームの普及に必要な中核的技術者養成事業」として平成 30 年度より調査開発を進めており、「センシング装置を使った組み込みソフトウェア開発」の実証授業を次年度の夏季休暇期間に実施予定で、他のプログラムも各種委員会での検討を進めている。</p>	<p>卒業生の動向（顕著な活躍等）については、校友会事務局だけでなく、学校の教員等との協力体制で更なる情報の収集に努める。</p> <p>スマートハウスとセキュリティに関する授業プログラム開発も計画しており、建築設備の授業の一環として実際の建築系学科の授業に実装することを想定している。しかし、建築学生の資質・スキルにマッチする授業設計が必要であり、現場の教員との共同開発を継続する。</p>	<p>試験センター発表データ（専門学校での合格者数は、西日本では 1 位〔同数 2 校〕、全国では 2 位〔同数 2 校〕） 校友会組織図 各受賞記録簿 職業実践専門課程の認定証明書</p> <p>平成 30 年度事業計画書（成果物：報告書等）</p>

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
専門学校としては比類ない歴史を持ち、業界で活躍する卒業生は極めて多い。それらを統括する校友会活動も活発であり、西日本全域を中心に各支部を持つ。また、連携企業からの多様な講師陣と言った専門人材を擁しており、その豊富な専門性や人間性が本校の実践的な教育の源泉である。	

最終更新日付	2019 年 03 月 31 日	記載責任者	伊東 和幸
--------	------------------	-------	-------

1-3 学校の将来構想を抱いているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
1-3-6 学校の将来構想を描き、3～5年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか	4	学校の将来構想（存続）に於いては、安定した学生数の確保が必須であり、それに向けた中期構想を抱いている。	その学生数を確保するため、常に入学希望者の動向や社会情勢を視野に入れた中期計画（3ヶ年計画）を策定している。	将来的にはオンリーワンとなるべく、競合他校と一線を画した学校作りをめざす。そのための教育内容の再編を企画開発と学科長が連携し取り組む。	中期計画（3ヶ年計画書）

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
中期計画（3ヶ年計画）を策定する上で、各産業界の社会情勢や入学希望者の動向を把握しながら、設置学科の再編やカリキュラム内容の見直しを行い、将来構想を図っている。また、今後は競合他校とは一線を画した学校作りを推進して行く必要がある。	

最終更新日付	2019年03月31日	記載責任者	伊東 和幸
--------	-------------	-------	-------

基準 2 学校運営

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校運営は、建学の精神に由来する教育理念や校是を最上位の判断基準とし、運営会議を筆頭に、教務会議・各委員会の議決の基に運営されている。平成 29 年度より、企画開発局を新たな部署として発足し、教員の人員配置、各学科の今後の在り方等、中長期的な課題解決を図っている。</p> <p>また、経営に関連する事項については、学園理事会での議決に拠っている。運営の具体的な目標や方針は、教務会議や各委員会で審議された事項を基に運営会議で諮り、事業計画として計画・策定され、年次途中での実施状況確認を経て年度末に総括され翌年の計画に反映させている。さらに、より長期的な視点からの将来構想を構築するため、中期計画（3 ヶ年計画）を策定している。学校運営の基盤については、学則を最上位に各種規定、及び各種内規により定められている。</p>	

最終更新日付

2019 年 03 月 31 日

記載責任者

伊東 和幸

2-4 運営方針は定められているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
2-4-1 学校の目的、目標に基づき、学校運営方針は明確に定められているか	5	学校の管理運営に当たっての目的、目標に基づく運営方針は、毎年、事業計画の中心内容として定めている。	運営方針を盛り込んだ事業計画は毎年3月下旬の理事会、評議員会にて承認を得ている。		福田学園事業計画書(OCT)
2-4-2 学校運営方針はきちんと教職員に明示され、伝わっているか	5	運営方針は、教務会議や各委員会での審議をもとに運営会議で諮り作成している事から、決定内容は戻し伝えている。	学園組織図に沿って、運営会議(上層)から教務会議・各委員会(下層)を通じて、教職員に明示し伝えている。		運営会議議事録 教務会議議事録 各委員会議事録 福田学園組織図
2-4-3 学校運営方針を基に、各種諸規定が整備されているか	5	運営方針に基づき、各種規程及び各種内規を整備している。	各種規程及び各種内規については、事業計画の策定と併せて常に見直しを行っている。		福田学園組織規程 OCT 処務規程書 各種規程書 各種内規書

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
目的や目標に基づいた運営方針は、教務会議や各委員会での審議を基に運営会議で諮られ、その審議事項の内容が事業計画として中核的な役割を担っている。また、それらを集約し長期的な全体構想を加味した中期計画(3ヶ年計画)を策定している。	

2-5 事業計画は定められているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
2-5-4 学校の目的、目標を達成するための事業計画が定められているか	5	2-4-1 アに同じ また、その結果を事業報告として纏めている。 併せて、中期計画（3ヶ年計画）を策定している。	事業計画は毎年3月下旬に、また、事業報告は5月下旬の理事会、評議員会にて承認を得ている。		福田学園事業計画書（OCT） 福田学園事業報告書（OCT） 中期計画（3ヶ年計画書）
2-5-5 学校は事業計画に沿って運営されているか	5	事業計画に基づき実施状況の確認と計画変更等があれば運営会議で修正等の確認を行っている。	運営会議は月1回のペースで開催され、進捗状況の確認をしている。		運営会議議事録

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
事業計画は毎年、教務会議や各委員会での審議を基に運営会議で諮られ、その審議事項の内容が中核的なものとなって策定している。また、毎月進捗状況が運営会議で確認され、修正や調整をしながら業務が進行している。年度末には部署毎で総括され、次年度の計画策定に反映している。尚、長期的な構想を捉え、事業計画を基に全学的な中期計画（3ヶ年計画）を策定している。	

最終更新日付	2019年03月31日	記載責任者	伊東 和幸
--------	-------------	-------	-------

2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
2-6-6 運営組織図はあるか	5	学園組織図は、法人室にて管理し全教職員とも閲覧可能である。	2-6-6 アに同じ		福田学園組織図
2-6-7 運営組織や意思決定機能は、学校の目的、目標を達成するための効率的なものになっているか	5	運営組織や意思決定機能は、学校の目的、目標を達成するための効率的なものになっている。	理事会、評議員会は、私立学校法に定められた役割を果たすべく機能している。また、目標達成のための運営組織が整備されており、運営のための会議は効果的に開催されている。		福田学園理事会議事録(OCT) 福田学園評議員会議事録(OCT) 運営会議議事録
2-6-8 組織の構成員それぞれの職務分掌と責任が明確になっているか	5	組織の構成員それぞれの職務分掌と責任が明確になっている。	学園組織規程、OCT 処務規程により、組織内の各職位別、各職務別に、その役割と責任を明確に示している。		福田学園組織規程書 OCT 処務規程書

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校の最上位意思決定機関として運営会議が設置されており、そこでは教務会議や各委員会での各種答申・審議事項が一元的に取り扱われている。教務会議や各委員会が実質的な審議の場として、学校運営全般について基本的な方針や施策を検討、策定している。</p> <p>また、平成 29 年度より、企画開発局を新たな部署として発足し、教員の人員配置、各学科の今後の在り方等、中長期的な課題解決を図っている。</p>	
最終更新日付	2019 年 03 月 31 日
記載責任者	伊東 和幸

2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
2-7-9 学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか	4	事業計画に基づき、学校運営に必要な人材の確保と育成を概ね行っている。	その年度の事業計画に基づき、要員計画、新規採用計画を策定している。	教員については、週5日の専任教員の採用に拘らず、週3日、週4日等の専任教員の採用についても柔軟に検討する。	福田学園事業計画書(OCT)
2-7-10 人事考課制度は整備されているか	3	正式な制度としての人事考課規程は整備されていない。	人事考課規程は整備されていないが、実際的に人事考課制度は運用されている。特に業務委託契約者については、1年毎の契約更新時に上長等の評価により、更新の可否を決定している。	まずは、非常勤講師についてファカルティの見直しを行い、相対評価ができる項目を増やし、講師料等に反映することが可能か検討を行いたい。	業務委託契約者契約更新関係書類一式
2-7-11 昇進・昇格制度は整備されているか	4	事務系について、平成28年4月1日付で福田学園事務職員採用・昇任規程を制定した。	教員については、規程は整備されていないが、実際的に昇進昇格制度は運用されている。	教員に係る規定の整備を進めて行く。	人事異動通知書 辞令 福田学園事務職員採用・昇任規程
2-7-12 賃金制度は整備されているか	5	賃金制度は整備されている。	給与規程、退職金規程、一時金規程に基づき運用されている。		給与規程書 退職金規程書 一時金規程書 モデル試算表

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
2-7-13 採用制度は整備されているか	4	2-7-11 アに同じ	2-7-11 イに同じ	2-7-11 ウに同じ	福田学園事業計画書 (OCT)
2-7-14 教職員の増減に関する情報を明確に把握しているか	5	教職員の増減に関する情報を把握している。	事業計画、事業報告で学園全体の教員数等を掲載している。また、教職員採用年度や年齢等の構成一覧を作成している。		福田学園事業計画書 (OCT) 福田学園事業報告書 (OCT) 教職員構成一覧表

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
賃金制度については、退職金も含め精緻な制度が確立している。人事・昇進関係・採用については、明確な制度はないものの、各部署の人員計画や人事考課を反映した人事が施行されている。今後の課題としては、教職員の資質・能力向上の観点から、職場内での異動を円滑に行うための制度設計が必要である。	

最終更新日付	2019年03月31日	記載責任者	伊東 和幸
--------	-------------	-------	-------

2-8 意思決定システムは確立されているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
2-8-15 意思決定システムは確立されているか	5	意思決定システムは確立されている。	学園としての意思決定システムは、組織規程により明確に規定するとともに、学園組織図により、はっきりと明示している。		福田学園組織規程書 福田学園組織図
2-8-16 意思決定プロセスのポイントとなる仕組み(会議等)が制度化されているか	5	意思決定プロセスのポイントとなる仕組み(会議等)は制度化されている。	理事会・評議員会、運営会議、教務会議、各委員会と言った段階的に意思決定となる会議が制度化されている。		福田学園理事会議事録 福田学園評議員会議事録 運営会議議事録 教務会議資料 各委員会資料
2-8-17 意思決定の階層・権限等は明確か	4	意思決定の階層・権限等は概ね明確である。	各意思決定組織の階層・権限等を組織規程、処務規程等で定めることにより、適切かつ円滑にシステムを機能させている。	慣習的に未管理な部分もあり、定期的な見直しを今後進めて行く。	福田学園組織規程書 OCT 処務規程書

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
2-6(点検中項目総括) 同文 管理者の職務権限については、学園組織規程やOCT処務規定で明確化されているものの、慣習的に未管理な部分も見受けられ、定期的な見直しが必要である。	
	最終更新日付 2019年03月31日 記載責任者 伊東 和幸

2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
2-9-18 業務効率化を図る情報システム化がなされているか	5	業務効率化を図る情報システム化 (cam-j 等) がなされている。	入学から卒業まで、更には卒業以降の期間について、学生一人一人の情報を管理できるシステムを構築し運用している。 なお、学生募集については、更に平成 30 年度より、HP 分析も兼ね備えた総合システムである info クラウドを導入した。		システム概要図 ネットワーク図 各種出力帳票

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)
学籍管理や成績管理のシステムは既に導入しており、セキュリティー面も強化している事から、安全で効率的な業務遂行に寄与していると言える。	

最終更新日付	2019年03月31日	記載責任者	伊東 和幸
--------	-------------	-------	-------

基準 3 教育活動

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>人材育成像については、業界のニーズを捉えた上で学校としての方向性が定まっており、それに準じて各学科単位での人材育成カリキュラムが体系的に且つ適正な位置付けで策定されている。次に、学生による授業評価アンケートは全科目を対象に年間 2 回に亘って実施をしており、その集計結果から改善すべき所は改善し次期からの授業機会へと反映している。また、学校（各学科）が目標にしている人材育成像に向けた授業を行う事が出来る要件を兼ね備えている教員（講師を含む）の採用に当たっては、専門性（学歴・職業歴・取得資格等）と人間性（コミュニケーション能力等）を見ることで判断している。なお、全教員が業界レベルの専門性を持つ事よりも、その点については現役として活躍をする非常勤講師に担って貰い、専任教員の視点からは教育的技術を解き明かす立場として教員を棲み分けし配置している。その様な経緯もあり確固とした授業力の把握や評価のシステムは確立しておらず、その一部を授業評価アンケートで見ているのが現状である。今後は、公開授業やモニタリング等、授業運営全般に亘って授業力の把握や評価が出来る体制を整える必要がある。その他では、既卒者（リカレント層）にも広く門戸を開け、その対象となる学科も設置していることから多くの入学生を受け入れており、また、科目履修生の受け入れも行う事で生涯教育の機会を広げている。</p>	

3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
3-10-1 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	5	教育理念や教育方針に則りながら、業界ニーズにも対応した育成人材像へと方向付けをしている。	福田学園事業計画（OCT）に照らし、また教育課程編成委員会において業界ニーズを確認した上で学科毎に育成人材像を設定、H30年度中期計画で各学科での取組みを盛り込んでいる。		福田学園事業計画書（OCT） 学生便覧（14～21ページ） 教育課程編成委員会議事録

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学科レベル以前に学校としての育成人材像について、業界や入学生のニーズを基に、技術的な側面と社会的かつ人間的な側面との両面について、全学的な方向性が定まっている。その事を認識し教育の目標とした上で、学科としての目指すべき育成人材像を策定している。	

最終更新日付	2019年03月31日	記載責任者	宗林 功
--------	-------------	-------	------

3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
3-11-2 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか	5	各学科の教育目標等は勿論の事、業界の人材ニーズや教育期間を勘案して定めている。	学生便覧の中に教育方針・学習目的等を各学科単位で定め記載をしている。その到達度の把握は試験等を通じて確認している。		学生便覧（14～21ページ） 教育課程編成委員会議事録

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校の教育目標や人材育成像は、多様な資質を持つ学生群に対して、到達点を設けるのではなく、方向性を明確に示すことで学生個々のさらなる飛躍を期待すべきものと考えている。同時に、社会に送り出す上で最低限の知識や技術・人間性については、一定のラインを設定する必要がある。	

最終更新日付	2019年03月31日	記載責任者	宗林 功
--------	-------------	-------	------

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
3-12-3 学科のカリキュラムは、目標達成に向け十分な内容でかつ体系的に編成されているか	5	学科の目標達成に向け十分な内容でかつ体系的に編成している。	各学科単位で策定したカリキュラムを教務会議で審議し、その後に運営会議にて諮り承認を得て決定している。		シラバス 教務会議資料
3-12-4 カリキュラムの内容について、業界など外部者の意見を反映しているか	5	教育課程編成委員会において業界ニーズの確認、また業界に拠点をもつ外部講師や、各種業界団体や企業との関係によっても外部の意見を吸収している。	創立 120 余年の歴史から各種業界団体との強いパイプにより、企業のみならず外部講師に至るまで多岐に亘って情報を得ている。		シラバス 教育課程編成委員会議事録
3-12-5 カリキュラムを編成する体制は明確になっているか	5	教務課及び各学科単位に於いて、カリキュラムを編成する体制を整え明確にしている。	学科長を中心に関係教員で学科の全体像を策定、その後メンバーによる協議を重ね編成するようにしている。		福田学園組織規定書 OCT 処務規定書
3-12-6 カリキュラムを定期的に見直しているか	5	毎年度、見直しをしている。また、建築系学科では建築士受験資格の更新審査が4年毎に実施され、その都度内容確認をしている。	学生の資質や業界の求める人材像を勘案しながら、各学科単位で協議を重ね、最終的に新年度に向けて変更を行うようにしている。		学則変更 シラバス

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
カリキュラム構築は、学科の技術的な教育目標にもとづく体系的な科目設定、人員や施設の配置・時間割表の作成という一連の業務である。科目設定と人員配置の一部を各学科において、総合的な人員・施設の配置と全学的な調整作業が必要な時間割表の作成については、教務課と事務課の担当者で行っている。今後、上記の一連の流れを早期化する事で、非常勤講師の確保や教科書・教材確定に於いて迅速な対応を図る。	

最終更新日付

2019年03月31日

記載責任者

宗林 功

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
3-13-7 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか	5	学科における科目体系上の位置づけや、受験資格認定上の必要科目としての位置づけ、さらに必修・選択の性格づけなど、多様な位置づけがなされている。	学校のホームページにて、各学科のシラバスを公開している。		学校 HP (シラバス) 建築士受験資格要件一覧 (建築系学科)
3-13-8 各科目の指導内容、方法等を示したシラバスが作成されているか	5	全科目についてシラバスが整備され、科目の目的、身につけるべき能力、そのための教育手法、自ら学ぶための手法などが明示されている。	3-13-7 イに同じ		学校 HP (シラバス)
3-13-9 各科目の一コマの授業について、その授業シラバスが作成されているか	5	1 コマごとの授業内容、キーワード、配布資料、練習課題が掲載されている。	授業支援システム上において学生が自由に閲覧可能な状態になっている。		学校 HP (シラバス) 授業支援システム

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)
シラバスについては、形態的レベルでの整備は完了している。さらに、カリキュラム全体の中で各科目の位置づけや授業理解に役立つように、また学生の能動的学習を促すツールとして「授業支援システム」を運用実践している。これはシラバスと実際の授業進行との間に差異が生じた場合の補完にも活用されている。	

最終更新日付

2019年03月31日

記載責任者

宗林 功

3-14 授業評価の実施・評価体制はあるか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
3-14-10 学生による授業評価を実施しているか	4	全科目に於いてI部・II部共に、前期・後期の各1回、実施している。	3-14-10アに同じ	対象全科目を全学生に対して、シートの配布形式で行い、その集計も手作業となっている事から、ネットによるアンケートシステムを採用した。まだ、段階的な改善の余地を残している。	ファカルティシート FD記述式シート ネットアンケートデータ
3-14-11 授業内容の設計や教授法等の現状について、その適否につき学科や学校として把握・評価する体制があるか	4	授業評価の結果は事務課で統計的に処理され、本人に結果報告を行うと共に役職者が結果確認を行っている。しかしながら適否評価する体制としては整っていない。	授業評価結果に対し本人による「ふり返しレポート」の提出を求めており、授業評価結果と共にファイルし、教務課にて保管している。 授業評価結果の良くない場合は本人へのヒヤリングや指導により経過観察し、改善されない場合は担当変更等により対応している。	科目主任教員レベルにおいては、その都度、担当講師に対し授業内容の設計・改善指導は行われている。学科や学校としては授業評価結果からの現状把握はできているものの、その適否についての評価体制作りが今後の題である。	FD集計データ ふり返しレポート

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
授業評価については長年の積み重ねがあるが、やや形骸化の感もあったため近年見直しを実施している。授業評価の内容を、学生の感覚的な満足度調査から、設定された教育目標の達成度確認に切り替えることが見直しの観点である。具体的にはチェックシート方式だけでなく学生自身が授業への取り組みをふり返ることが出来るよう「記述式」の併用を行っている。こうすることで、各科目の達成目標、学生が身につけるべき能力をより明確化することが出来る。	

3-15 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
3-15-12 学科の育成目標に向け授業を行うことができる要件(専門性・人間性・教授力・必要資格等)を備えた教員を確保しているか	5	教員採用に当たっては、学歴・職務歴・取得資格等を専門性の目安としている。 また、学生との円滑なコミュニケーションのための柔軟な人間性を重視して教員を確保している。	履歴書や面接記録等によって確認が出来る。 ※面接時には、企業における実務経験の内容を確認する。その経験内容を以って、授業にどう生かされるかも判断基準としている。		履歴書 面接記録シート
3-15-13 教員の専門性レベルは、業界レベルに十分対応しているか	5	全教員が業界レベル(最新で且つ即戦力的な意味)での特化までした専門性を持つ必要性はないと考えている。逆に業界の専門技術者が得てして気づかない、技術が内包する基本原理や理論を重視している。	業界レベルの技術保持者として現役で活躍する非常勤講師を、教育的観点から技術を解き明かす立場として専任教員をバランスよく配置し対応している。		履歴書等(非常勤講師)
3-15-14 教員の専門性を適宜把握し、評価しているか	5	教員の職務経歴や研究領域により専門性を把握しており、また授業評価によっても確認をしている。	履歴書や面接記録による確認、および前後期各1回の授業評価を実施している。		履歴書等一式 ファカルティシートFD 記述式シート
3-15-15 教員の専門性を向上させる研修を行っているか	4	学校として、組織的に専門性を維持向上させるための研修会への参加機会の提供や、また、それらに個別参加した教員からの情報(知識・技能)を全教員で共有している。	専門性を伴う研修会の開催状況については、教務課長が年度毎に把握し、適切な教員に受講の勧めを行っている。	全教員に等しく研修会参加機会を設定する事が難しい状況にあり、参加機会を設けるための校務調整も含め今後の検討としたい。	研修会(参加記録)

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
3-15-16 教員の教授力(インストラクションスキル)を適宜把握し、評価しているか	4	前後期に各1回実施している授業評価を通じ、教員の教授力を把握している。	3-14-10 アに同じ	授業評価結果により教授力の把握はできているが、評価基準など評価体制作りは今後の課題である。	ファカルティシート 授業評価の結果データ
3-15-17 教員の教授力(インストラクションスキル)を向上させる研修を行っているか	4	校内研修という形式は取っていないが、各種関連団体が実施する研修への参加機会を設けている。また授業評価のあり方をめぐる議論や教員間での授業運営の打ち合わせ等が、結果として教授力の向上に役立っている。	教授力を向上させる研修会の開催状況については、教務課長が年度毎に把握し、適切な教員に受講の勧めを行っている。	全教員に等しく研修会参加機会を設定する事が厳しい状況にあり、全教員が参加できるように学内研修会の実施も検討したい。	研修会(参加記録) ファカルティシート 授業評価の結果データ
3-15-18 教員間(非常勤講師も含めて)で適切に協業しているか	5	同系列科目での専任教員間、また非常勤講師とのペアで担当する科目での協業が順調である。	専任教員間では定期的なミーティングで、また非常勤講師とのペアでは専任教員が主導的に協業を進めている。		授業担当表 授業支援システム
3-15-19 非常勤講師間で適切に協業しているか	5	非常勤講師には講義内容や業務について明確に指示がなされているため、非常勤講師間でも協業が順調である。	各学科担当、科目主担当の専任教員からの指示のもと、講師間で打合わせが行われ、協業の土台となっている。		講師向け資料 授業支援システム

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
3-15-20 非常勤講師の 採用基準は明確か	3	採用基準は、規定として明確化していない。	その時々々の教育ニーズに応じて、職歴・学歴・取得資格や面接での人間性を総合的に判断して採用を行っている。	職歴や一定の取得資格等、最低限の基準作りの検討が課題である。	履歴書等一式

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>授業の品質向上については、個々の教員や同系列教員グループに委ねられているのが現状であり、そのような自立・自発的な改善努力の成果には目を見張るものも少なくない。一方では、せつかくの成果が閉ざされた授業空間故に他に伝播することなく、一部に留まってしまふ憾みもある。</p> <p>成果を共有し、更なる向上のためにも組織的な教育研究や公開授業を含む、施策の必要性がある。</p>	

最終更新日付	2019年03月31日	記載責任者	宗林 功
--------	-------------	-------	------

3-16 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
3-16-21 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	5	成績評価は出席率、定期試験、作品等を総合して判定（優・良・可・不可の4種）している。その判定結果で合格（優・良・可の3種）の者に対して所定の単位を与えている。	シラバス、及び学生便覧の履修規定の中で詳細に表し明確にしている。	※平成31年度より、5段階（秀・優・良・可・不可）とし、これまでの優を2段階に分ける。	シラバス 学生便覧(24～33ページ)
3-16-22 他の高等教育機関との間の単位互換に関する明確な基準があるか	5	出身校の成績証明書（単位取得状況）、並びにシラバス（科目内容）を確認した上で、本校での履修科目に相当するものに関して単位認定を行っている。	学生便覧によって単位認定について記載している。単位認定するに当たっては科目担当者が精査し、上長の承認を得て行っている。		シラバス 学生便覧（35ページ）

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
成績評価・単位認定、及び単位互換は、それぞれの項目について学生便覧等に明記し判定を行っているので問題はないと判断できる。	特になし。

最終更新日付	2019年03月31日	記載責任者	宗林 功
--------	-------------	-------	------

3-17 資格取得の指導体制はあるか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
3-17-23 目標とする資格はカリキュラムの上で明確に定められているか	5	建築系の学科に於いては、建築士資格取得を目標にしている事からカリキュラムの中で明確に定めている。	建築士試験の受験資格は、カリキュラムの中で指定された科目の履修が必要である。また学科毎に推奨資格対策授業を組んでいる。		建築技術教育普及センター（確認通知書） 時間割 学校説明資料
3-17-24 目標とする資格の取得をサポートできる教育内容になっているか	5	3-17-23 イで記載している内容で修学期間中のカリキュラムが構成されている。	必然的に、指定科目の単位を取得しなければ、進級・卒業に至らない。		学則 (カリキュラム別表)

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
建築系の学生にとって、卒業後、学生本人の希望も然ることながら建築士資格があらゆる要件で必要となる事から、必然的に指定された科目の単位を取得しなければ進級・卒業に至らないように、カリキュラムの中に組み込んでいる。また、学科（本科）卒業後には、建築士資格取得を第一とする学生を対象に1年制の建築士専科を設置し教育（資格対策）を行っている。	

最終更新日付	2019年03月31日	記載責任者	宗林 功
--------	-------------	-------	------

3-18 生涯学習に対して積極的に取り組んでいるか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
3-18-25 生涯学習に対して積極的に取り組んでいるか	5	大学等の卒業人や社会人経験者を対象とした建築設計学科、また建築学科(夜間部)においても同様の対象者の受け入れを積極的に行っている。また、平成26年度よりフレックス建築学科(単位制)を新設し生涯学習に対する取り組みを拡充している。	建築設計学科では平成22年度開講以降、毎年20~25名程度の入学者がある。 また、建築学科(夜間部)では平成30年度に48名の入学者、単位制学科では4名の入学者となっている。		学校案内書 (94~107ページ) 学校基本調査資料 (平成30年度)
3-18-26 聴講生制度はあるか	3	科目履修生として、正規の入学者以外にも門戸を広げ教育の機会を与えている。	学生便覧によって明示している。	時間割やクラスの構成上、聴講希望者との条件が合わない事が多く、敢えて外部への情報発信を積極的には行っていない。当面の間、現状のままとする。	
3-18-27 生涯学習に関連する講座の開設・受講の状況・推移を正確に把握しているか	NA				

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
中長期的なキャリアアップを支援するため、短期に修了するような講座と一線を画したりカレント対象学科(対象者:大学等の卒業人や社会人経験者)を設置し、受け入れていることは、大いに生涯学習に貢献していると考えられる。	特になし。

3-19 附帯教育事業に対する取り組みの組織・体制は明確になっているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
3-19-28 附帯教育事業に対する取り組みの組織・体制は明確になっているか	4	主な対象者を卒業生、並びに在校生とする各種資格試験対策講座を開講している。	キャリアセンターの中にエクステンション室を設置し、当業務を遂行している。	入学早々からキャリアデザイン授業等を通じた啓蒙が必要であり、H29年度よりキャリアセンター職員が当授業の一部を担当。就職における資格の重要性を強く説いている。	各種開講講座データ。
3-19-29 附帯教育事業に関連する講座の開設・受講の状況・推移を正確に把握しているか	5	平成21年度実施からの開講講座に於いて状況の把握をしている。	実施した講座の記録データがすべて詳細に残っている。		各種開講講座データ。

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
各種資格試験対策講座の講師陣はすべて学校関係者（専門的な知識や技術を擁する人材）で万全の態勢を整え実施している。	

最終更新日付	2019年03月31日	記載責任者	善才 雅夫
--------	-------------	-------	-------

基準 4 教育成果

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校の教育成果とは、長期的には卒業生の社会での活躍や評価、短期的には、進級・卒業率や就職率、資格取得率などが指標として用いられることが多い。しかし「活躍や評価」が数値を伴う指標になり難い点や、卒業率（対概念としての退学率も同様）や資格取得率などの数字も、「教育」(education)の語源が(educatio)「引き出す」であることから、教育対象である学生一人ひとりの多様な資質を引き出した結果＝成果を計る指標としては、いささか表層的な面があることは否めない。したがって、「何をもって教育成果とするか」という確認作業こそが、学校の教育成果に関する自己点検の前提となることを踏まえたうえで、以下の点検作業を行うものである。学生の就職については、専門業界への就職以外に、大学編入や留学希望などと多様化している。また、就職を目的としない入学者（主婦や社会人）も増加しており、一律的に捉えることが困難になっている。そのような状況のなかで、専門業界に就職を希望する者を分母とした就職率については例年90%を超えている。しかし、全般的に就職への動機が強いとは言えず、動機そのものを育む必要がある。週に一度のキャリアデザイン授業の内容を更に手厚くし、業界動向や特性、職種解説はもちろん、働くとはどういうことなのかということから丁寧に指導していく必要があり、これを実践する中で教員と進路支援室が一体となった就職に向けた支援プログラムの策定と、求人企業開拓を同時に進めている。資格取得に関しては、在学中に取得できる専門分野の資格が少なく、業務で必要な資格は実務経験を経て受験するものが多い。従って在学中の資格取得は、教育の目標と言うよりも技術の原理原則を理解するための契機であり、受験経験そのものを積ませることを通じて、将来の受験動機を形成することを目的としており、全学的に特定資格の合格率を明確な目標に掲げている訳ではない。その中で、建築士専科では二級建築士合格を学科の教育目標と位置付けており、全国平均 25%程度の合格率に対して例年 80%前後を達成している。また、大工技能学科では、1年生全員に建築大工技能士3級、2年生に同じく2級の受検を課しており、3級では73%、2級では20%の合格者を出している。その他では、昼間部全学生に社会人として必要な業務遂行上の常識についての自覚を促すことを目的に、ビジネス能力検定の受検を課しており80%の合格率となっている。</p>	

4-20 学生の就職に関する目標を達成したか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
4-20-1 学生の就職に関する目標を達成したか	4	中期計画で設定した就職内定率、進路決定率、進路活動率の中で進路活動率が未達成に終わった。(特に、昼間部において2名の未活動者があり、昼間部生であるがゆえに対策はとれたはずである)	目標数値：就職内定率 95.0%、進路決定率 94.0%、進路活動率 97.0% (昼間部 100%) 実績数値：就職内定率 96.8%、進路決定率 97.6%、進路活動率 99.3% (昼間部 99.2%)	日々行っている学生との個人面談については基本、学生からの能動的な動きに委ねている。動きの見られない学生へは担任教員が強制的に進路支援室へ赴くよう指示し、担任、進路、学生との3者面談を実施する。	進路活動概況報告書 求人データ
4-20-2 就職成果とその推移に関する情報を明確に把握しているか	4	学生個々人の進路活動状況を担任教員、進路支援室がほぼ把握しており、また、求人情報も進路支援室から教員への情報発信により共有化できている。	学生からの活動状況報告を徹底し、これを進路支援室が集約しデータ化。求人情報も同様であり、これらの情報を日々更新、発信することで最新情報が共有化されている	学生の活動状況把握はシステムとして完成の域にある。今後は Career Map の活用等を通じて学生個人での管理を進めていく予定。	進路活動概況報告書 求人データ

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)
進路支援に関する体制構築は進んでおり、今後更に詳細かつ明確なデータ作成や共有化システムの構築を進めていく。注力すべきは学生の進路に対する意識を醸成していくことであり、学生個人ごとへの丁寧な指導を担任教員と進路支援室が一体となって行わなければならない。	
	最終更新日付 2019年03月31日
	記載責任者 善才 雅夫

4-21 資格取得に関する目標を達成したか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
4-21-3 資格取得に関する目標を達成したか	4	二級建築士、建築大工技能士、そしてビジネス能力検定など全学的に奨励している資格については合格率など一定の成果が得られている。一方、任意であるが、企業ニーズが高い資格（建築施工管理技士や電気工事士等）に関しては、学生の挑戦意欲が形成されていない。	建築士専科における二級建築士の合格率は、全国平均の合格率（約25%）を大きく上回る45%となっている。建築大工技能士3級は73%、そして全学的なビジネス能力検定3級は80%の合格率となっている。 なお、2級建築施工管理技士（学科）は30%、第2種電気工事士は50%、2次元CAD利用技術者2級は55%の合格率であった。	企業向けアンケートの結果より、ニーズの高い資格に関しては、教職員が認識し、キャリアデザイン講義時に資格取得の必要性を伝える。具体的にはビジネス検定と福祉住環境3級の資格取得の必修化や、資格対策講座の受講の必要性を説くことで実務に役立つ資格を知らしめていく。	各試験合否結果データ
4-21-4 資格取得者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか	4	現在、経年ごとにデータ化し記録として残している。教務会議において教員並びに事務職員で把握している。	データとしては蓄積されているものの、各責任者、担当者レベルで情報が止まっている。	引き続き教務会議等での状況、結果報告を密に行ない、またデータ管理のオープン化を促進していく。	各試験合否結果データ

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
資格取得については動機形成や達成感醸成といった意味も込められているが、全学的に資格取得の必要性を訴えており、やはり数多くの資格取得に挑戦すべきである。そして、今の社会がどのような資格を求めているのかをしっかりと吟味し、実社会に即した資格取得を日々啓蒙し、これに関する支援を学校として行っていくべきである。	

最終更新日付

2019年03月31日

記載責任者

善才 雅夫

4-22 退学率の低減に関する目標を達成したか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
4-22-5 退学率の低減に関する目標を達成したか	3	2011 年度より除中退率低減を掲げ目標数値を設定しこれまで達成をしてきた。それは除中退理由や該当学生の基礎学力レベルなどをデータ化し、これに基づいた低減施策に取り組むことで成果が得られてきたが、2018 年度は 2017 年度を上回る除中退者を出す結果となった。	2017 年度(除中退率 8.5%)から、2018 年度(除中退率 11.3%)と約 3%の増加となった。	基礎学力、学修意識や目的意識において幅広い層の入学が増加している。特に AO 出願者にこの傾向が見られ、入試制度の見直しが対策の一つとして考えられる。	除中退者分析データ 除中退者原因別データ
4-22-6 入退学者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか	5	経年ごとにデータで残し、明確に把握している。	専修学校基礎資料調査を毎年、大阪府へ報告している。		専修学校基礎資料調査票

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
退学率の問題は、学校の教育目的や方針、入試制度、進級・卒業に関する要件や学生の資質・経済状況などとも深く関連しており、一元的に捉えることは困難である。本校では、クラス担任、教務委員会・進路委員会が退学率低減のための方策を検討し、これを実行している。学生カルテに記録を残し、そのフィードバックを学校諸制度やクラス運営に反映している。	

最終更新日付

2019年03月31日

記載責任者

宗林 功

4-23 卒業生・在校生は社会で活躍し、評価を得ているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
4-23-7 卒業生は社会で活躍し、評価を得ているか	5	各業界から卒業生の高い評価の声を多く聞く。また、企業の経営者や管理者層にも卒業生が多い。	企業アンケート結果や企業訪問でのヒヤリングより伝え聞く。		企業アンケート集計結果
4-23-8 卒業生の例として特筆すべきものを記述できるか	5	特筆すべきものを記述出来る。(4-23-8イ)	中堅企業や個人事務所で活躍しているケースが多く、一般的な知名度は高くないが、その道で一目置かれる卒業生は多い。		旧担任への情報(連絡) 新聞記事等
4-23-9 在學生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価されたか	5	建築、大工及び機械の分野に於いて、多くの受賞歴がある。	代表的なものとして、建築学会近畿支部設計競技会・大阪府夢あすなるコンペ・全国ロボット競技会等での多くの受賞歴がある。		コンペディション受賞歴 コンペ企画書、プレゼンテーションシート
4-23-10 在學生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価された例として特筆すべきものを記述できるか	5	特筆すべきものを記述出来る。	4-23-9イと同じ		コンペディション受賞歴 コンペ企画書、プレゼンテーションシート

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
3万人を超える卒業生を擁する本校は、社会から一定以上の評価を受けており、建築・機械分野での会社における業績や各種受賞歴がそれらを裏付けている。校友会組織が全国各地に支部を持ち、卒業生と学校との窓口としても機能しているが、より一層の連携が必要である。	

最終更新日付

2019年03月31日

記載責任者

宗林 功

基準5 学生支援

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>進路支援（就職・進学）について、就職ガイダンスの開催や個人面談、学生カルテの作成など体制構築は日々進んでいる。求人数についても年々その数は増加しており、学生に対して、より多くの就職先企業を提供できている状況にある。進路指導に於いては、より細かな個別対応を進め、まずは就職に対する意識形成を早期に具現化できるようにしなければならない。求人企業では、数のみを求めるのではなく、業界、職種、企業規模など学生の細かなニーズに応えられるよう質も合わせて求めていかなければならない。次に、学生相談は外部から専門の心理カウンセラーを配置し有効に機能している。また、経済的側面での支援では公的な奨学金制度の紹介だけでなく、学園独自としての学費サポート体制を整え、且つ、延納・分納制度も取り入れ可能な限りの対応を行っている。その他では、学生の健康管理体制も勿論のこと、課外活動に対する支援や一人暮らし等の生活環境の支援、卒業生への支援も万全の体制を整えている。当然の事ながら、学生の保護者とも適切に連携をしながら、有意義な学生生活になるよう邁進している。</p>	

最終更新日付

2019年03月31日

記載責任者

善才 雅夫

5-24 就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
5-24-1 学生の就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	5	学科特性、学生個々の状況に応じた適切な進路活動支援体制を構築している。	進路担当 3 名と教員との情報共有、就職ガイダンス開催、2 年進級時の昼間部学生全員面談、日々の個別面談等々を実施。進路決定率 97.6%を達成。		ガイダンスレジュメ
5-24-2 就職に関する説明会を実施しているか	4	支援活動の一つとして学内、学校単独の説明会、見学会を積極的に開催する中、実施業界、採用職種に偏りがある。	年間 58 社の開催。この中で建築系では住宅関連、機械系では大手企業、職種はいずれも設計系が多く、学生の細かなニーズに対応できるとは言えない。	学生の動向をより深く認識しこれに見合った企業群を抽出する。これらの企業に対し実施促進のための営業行為を積極的に行う。	ガイダンスレジュメ (参画企業リスト)
5-24-3 就職に関する学生個別相談を実施しているか	4	授業開始前、昼休み、放課後、土日を利用した個別指導を実施している。一方で全くこれを活用しない学生も若干名存在する	2 年進級時に昼間部全学生との個人面談を実施。これ以降、任意の形で面談を継続。任意の中で面談記録のない昼間部生が 2 名あった。	就職意識醸成の未徹底。2 年時 12 月の段階で面談記録のない者を担任と共有し同 1 月に担任、進路、該当学生との三者面談を強制実施する。	面談記録簿
5-24-4 就職の具体的活動(履歴書の書き方など)に関する指導を実施しているか	3	就職ガイダンス、キャリアデザイン、個別指導を実践。一部の学生においては書類の体裁を整えることに終始している事例もあり、真の進路指導という意味で十分ではない。	履歴書の添削、模擬面接等の場面で内容の希薄さが顕著に見られることが少なからずある。	業界、職種知識の低さ及び言語能力の弱さに尽きる。支援プログラムの見直しを常に行い、特に既に導入している基礎学力向上プログラムを更に強化することで底上げを図る。	履歴書添削資料

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
今後も進路委員会、進路支援室主導で進路支援体制を強化していく。学生動向を教員と情報共有し、進路決定に対する意識形成を図らせた上で具体的な方向性を見出し、決定のための方策を練り、これを実践する。年間スケジュールや方策については年度ごとに見直しを行い、より効果的な手法を構築していく。	

5-25 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
5-25-5 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	5	クラス担任制度を設け、常時、授業ほか色々な悩みに対する相談を行っている。 なお、心理面については、専門のカウンセラーに相談出来る体制を整えている。	担任による職員会議での報告、及び心理面での専門カウンセラーからの報告により、相談率も高く十分に機能していると判断できる。		職員会議（議事録） 専門カウンセラーからの報告書
5-25-6 学生相談室を開設しているか	5	1・2号館に、学園3校共同で利用できる学生相談室を開設している。	毎月、ポスターにて学生相談室の開室日の公開している。		学生相談室開室日ポスター
5-25-7 学生からの相談に応じる専用カウンセラーがいるか	5	学生相談室に、専門カウンセラー（2名）を配置している。	掲示用ポスターに開室日ごとに担当者名と利用方法を明示している。		学生相談室開室案内ポスター
5-25-8 留学生に対する学生相談体制は整備され、有効に機能しているか	3	専属の留学生担当者（1名）を配置している。しかしながら、昨年に続き在留資格変更申請に於いて、問題が発生した。	日本語学校時代の『資格外活動違反』を事由として、就労ビザ申請が不許可処分となった。	入学試験時の面談に於いて、出願書類をもとに徹底した『資格外活動時間（週28時間厳守）』の確認を行う。	ビザ取次申請資格者（在職）

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生相談の体制は十分に整備されており大きな問題はない。但し、留学生に対する相談では日本の文化や日本語の理解に於いて多少の行き違いも見られる場合がある。また、改めて『資格外活動違反』を始めとした入管法違反に対する徹底した指導（注意喚起の繰り返し）が重要である。	今後、留学生の人数が増えてくる場合は専門的な担当スタッフの人数も増やす必要がある。

最終更新日付	2019年03月31日	記載責任者	浜野 哲二
--------	-------------	-------	-------

5-26 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
5-26-9 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか	5	経済的困難者には、日本学生支援機構の奨学金予約採用者を対象に、ドリームサポートプランと称して入学後の月額分割払いを認める制度を整えている。	ドリームサポートプランを利用して入学してくる学生数が年々増える傾向にある。		ドリームサポートプラン案内書及び利用者数 日本学生支援機構奨学金の認定学科一覧
5-26-10 学費支援（免除）制度が整備され、有効に機能しているか	5	入学選考時、及び進級時点に於いて、本校の規定に基づき、学費の一部を免除している。また、入学後の家計急変者には経済的支援制度を設け支援体制を整えている。	入学選考時の「リカレント生対象学費支援制度」の利用者、進級時の「在校生対象学費支援制度」の採用者が多数いる。		学生募集要項（11ページ） 経済的支援制度規定書
5-26-11 学費の分納制度等、学生を経済的に支援する制度が整備され、有効に機能しているか	5	ドリームサポートプラン利用者以外には、学費の分納制度や延納制度を設けている。一括納入が厳しい学生（保護者）にとっては有効である。	年間、一定数の分納者や延納者がいる。		学費延納願 学費分納願

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
保護者の経済状況や学生自身の自費進学に対応すべく、可能な限り『分納・延納』の対応を行っている。しかしながら、授業料の免除については、学校の運営に大きく関わる事なので、現状としての最大限の支援を行っている。	

5-27 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
5-27-12 定期的に健康診断を行うなど学生の健康面への支援体制はあるか	5	年度初め(4月)、全学生に対して健康診断を実施している。	提携病院より医師・看護師はもとより、※検査技師を派遣して貰っている。 (※レントゲン検査車両)		健康診断結果データ ※(非公表)
5-27-13 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか	4	学園1号館2階に保健室を設置し、契約により看護師を常駐させ応急処置が行える体制を整えている。また、提携病院の医師とも必要に応じて指示を仰ぐようにしている。	実際に保健室を利用している学生がいる。	あくまでも応急的な処置の対応であり、現状としては、この体制を継続させる。	契約書(看護師) 契約書(提携病院)
5-27-14 学生からの健康相談等に専門に応じる医師・看護師等がいるか	4	5-27-13 アと同じく、健康相談等にも対応している。	実際に健康相談をしている学生がいる。	5-27-13 ウに同じ	契約書(看護師) 契約書(提携病院)

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
学園には医療系大学と医療系専門学校を併設している関係から*保健管理室を設置し、学園全体の学生を対象にして共同利用できる体制を整えており有効的に機能していると判断している。	大半は看護師による応急対応で十分であるが、今後は、校医による指示が必要なケースも想定して必要に応じた体制を整えた。

5-28 課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
5-28-15 スポーツ等のクラブ活動、ボランティア活動その他、課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか	4	現在、野球部・バスケットボール部・ロボット研究部・エネルギー研究部・建築技術研究会が活動を行っており、学生からの部費だけでは運営が厳しい事から学生自治会と学校から費用の一部を支援している。	運営費用を支援することにより、各クラブとも継続的な活動が行えており、その都度、学校 HP のブログ欄で活動報告がされている。	ボランティアについては、学校として推進できておらず、引き続き今後の検討事項とする。	クラブ案内（ポスター等） 学校ホームページ

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
アルバイト等をする学生も少なくない事から、クラブへの入部を希望する学生は決して多くない。その中でも本校が設置する学科系統に合致したクラブもあり、部員は楽しく学生生活を過ごしていると判断できる。	学生自治会の年間行事（ボーリング大会や卒業パーティ等）の予算関係からクラブに対して、多額の支援をする事は出来ない。

最終更新日付	2019年03月31日	記載責任者	浜野 哲二
--------	-------------	-------	-------

5-29 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
5-29-16 遠隔地出身者のための学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	5	学校の関連会社や大専各と提携している企業を紹介する事で、学生（保護者）のニーズに合った物件の紹介をしている。	学校の関連会社は、フォクトサービス（株）であり、また大専各の提携企業は、（株）ユニバーサル・サポート・システムズである。それらを通じた場合、個人で契約するよりも良い条件で契約が結べる。		学生募集要項（13ページ）寮・マンション案内パンフレット一式

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
悪徳な不動産会社が横行する中で、学校が紹介する関連企業が精査の上で紹介や斡旋することは、遠隔地出身者にとっても安心で、且つ、一般の方よりも好条件で契約が結べることは非常に有益な支援となっている。	

最終更新日付	2019年03月31日	記載責任者	浜野 哲二
--------	-------------	-------	-------

5-30 保護者と適切に連携しているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
5-30-17 保護者と適切に連携しているか	5	<p>新入生、進級生対象の保護者説明会開催（年2回開催）や各期に成績通知書の送付（年2回）を行っている。また、出席不良等についての連絡はクラス担任より直接行っている。</p>	<p>新入生の保護者説明会は入学式終了後に説明会を、12月には保護者懇談会開催し、就学期間中の事項や特に就職に関する取組等を説明の上で、質疑応答を受けるようにしている。</p> <p>進級生は5月に保護者懇談会を開催し、卒業学年としての教育指導関係の説明や進路、就職活動の説明を行う。会終了時にアンケートを取り、質問や相談については、後日担任より文書による郵送又は電話により全て回答を行っている。</p>		<p>保護者説明会案内文 保護者懇談会案内文 成績通知の見方 教務課からの案内 担任からのお便り (非公表) 成績通知書 (非公表)</p>

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
出席不良は中途退学の大きな要因ともなっている。そのことから、早期での保護者との連携の下に、欠席理由の原因説明は中途退学を阻止する上で、有効な手段となっている。	

最終更新日付

2019年03月31日

記載責任者

宗林 功

5-31 卒業生への支援体制はあるか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
5-31-18 同窓会が組織化され、活発な活動をしているか	5	校友会（卒業生組織）として、各地区（北陸・近畿・中国・四国・九州の各ブロック）に県単位で支部が設立されている。	校友会は毎年の総会だけでなく、各支部で開催されているイベントを通して情報交換等を行っている。		校友会ホームページ ・組織図 ・イベント他
5-31-19 卒業生をフォローアップする体制が整備され、有効に機能しているか	5	卒業生対象の中途採用情報を提供し、再就職支援を行っている。また、卒業後に指定した資格取得に対しては報奨金制度を設けている。	多くはないが、中途入社を希望する卒業生が問い合わせをきて対応している。また、1級建築士の資格取得者への報奨金も発生している。		校友会ホームページ ・報奨金制度 ・OCT ジョブサーチ

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校の一室に校友会事務局が所在することや、近畿を中心とした西日本全域に支部が存在することで、卒業生のあらゆる情報（活躍等）が迅速にキャッチでき、その得た情報をもとに他の各支部へ発信できることは卒業生全体への励みになっていると考えられる。併せて、転職における支援は多くの卒業生が求めていることであり、これを今後も拡充させる。	特になし。

基準 6 教育環境

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>施設・設備は、パソコン機器類を始め教育上の必要性に十分な対応が出来るよう整備されているが、経年による劣化や故障等のメンテナンスを考慮し、5年以上を経過するものには、今後、十分な管理を行っていかねばならない。そのため、中期計画（3ヶ年計画）では、先を見据えた予算計画を盛り込んでいる。また、学外実習やインターンシップ等に於いても、十分な教育体制を整備し、教育効果は上がっていると判断出来るが、更なるインターンシップの連携企業の開拓の必要性を感じている。なお、防災に対する体制については、マニュアルを完成させたのみで、実際の訓練等には至っていない事から、早急に対応する必要がある。</p>	

最終更新日付

2019年03月31日

記載責任者

浜野 哲二

6-32 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
6-32-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	各学科の学生数や学科の系統(カリキュラム内容)に応じて、中期計画に基づき、教室仕様の変更や機器等を整備している。しかし、学生募集状況により、急な対応をせざる得ない場合が発生する。	平成 31 年度生を迎えるに当たって、建築学科(1・2 生用)に教室 8 クラス分の仕様を変更した。(什器の総入れ替え、及び製図版の調達)	限られた施設設備の中での工夫のため、応急的な対応であることは否めない。なお、平成 31 年度には、中期計画に基づき国庫補助金を申請した上で情報処理室(2 室)の整備を行う予定である。	建築学科 8 クラス (341・342・343・344) (351・352・353・354) 福田学園事業計画書 (OCT)
6-32-2 施設・設備のメンテナンス体制が整備され、有効に機能しているか	4	学園内にネットワーク、及び PC 機器等に係る専属職員を配置して、通常のメンテナンス体制に対応している。 また、施設のメンテナンスは可能な範囲で営繕(2 名)が対応している。	施設・設備に不具合等が生じた場合は、迅速な対応が求められる為、まずは専属職員や営繕が対処しているが、特別に専門技術が伴うものは外部に依頼して対応している。	PC に関しては、学生の長期休暇期間中に、全台数に亘って動作等の確認やメンテナンスを行うことで事前に予防している。※また、保守契約を交わすことで、緊急時の対応にも備えている。	学園事務職員名簿 保守契約書
6-32-3 施設・設備の更新に関する計画を立て、計画通りに更新しているか	4	中期計画(3ヶ年計画)の下、単年度毎に事業計画にて理事会の承認を得て、計画通りに実施している。	但し、学園全体の予算や優先案件が発生した時には、当該年度以降にずれ込む場合がある。	平成 31 年度の情報処理室の整備は、1 年遅れの整備計画であるが、最優先として推進する。	福田学園事業計画書 (OCT)

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
業界のニーズを鑑みながら、教育上の必要性に対応できるよう、中期計画(3ヶ年計画)の下、施設・設備を整えている。また、そのメンテナンス体制も専属職員や営繕を配置し初期対応している。しかしながら、学園職員という人的制限や能力的な限界もあり、業者との保守契約を交わすことで緊急対応に備えている。	

6-33 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
6-33-4 学外実習、インターンシップ、海外研修等について外部の関係機関と連携し、十分な教育体制を整備しているか	4	学科の系統やその学生数に対応すべく、外部の関係機関、企業等と連携し、十分な教育体制を整備している。	例年、長期休暇期間(春季・夏季)を利用してインターンシップを実施している。～ 【連携企業数：延べ337社、参加学生数：延べ168名】	インターンシップについては連携先の拡充が望まれる。参加学生数も回を追うごとに増加しており、教務課と連携し当機会の重要性を発信し続ける。	各学科事業計画 進路支援室資料
6-33-5 学外実習、インターンシップ、海外研修について、その実績を把握し教育効果を確認しているか	4	インターンシップについて、参加した学生の実績を把握し、教育効果を確認している。一方で報告書類の未提出者が複数おり、企業側からは内容を確認できているものの学生側の学びを完全に把握できていない。	各種資料により実績を、また連携先からの評価レポートや学生レポートによりその効果を確認している。インターンシップ参加延べ168名中延べ14名が結果報告書を未提出であった。	これまで報告書未提出者はこの単位を認定しないということで最終処理を行ってきたが、今後は報告書の提出を更に徹底し、キャリアセンターと担任教員の双方から促し提出100%を完遂する。	各学科事業計画 進路支援室資料

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
インターンシップについては上記記載のとおりである。学外実習(研修)として、学科ごとに建築施設の見学会や外部機関主催の展示会などに積極的に参加している。また、海外研修においては校友会が主催して、年に一度開催されており、ヨーロッパ地域を中心に定例化された研修旅行行事として定着している。	

最終更新日付	2019年03月31日	記載責任者	善才 雅夫
--------	-------------	-------	-------

6-34 防災に対する体制は整備されているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
6-34-6 防災に対する体制は整備され、有効に機能しているか	2	防災士、及び各施設に防火管理責任者と営繕（2名）を配置している。また、非常時の備蓄品も保管している。	各施設の定期点検を行っている。	体制を整備し、防災マニュアルを作成したものの、それに基づく、研修会、及び訓練の実施までに至っていない。 平成31年度には、防災啓発（講習会）を計画する。	防災マニュアル 備蓄品
6-34-7 災害を起こす可能性のある設備・機器等の情報は十分に伝えられているか	5	営繕担当者が定期的な点検をしており、事務管理責任者へ情報伝達している。	設備・機器等の状態も含めた巡回日誌がある。		営繕の日報
6-34-8 実習時等の事故防止の体制は十分か	2	防災マニュアルは完成しているが、全教職員まで周知徹底出来ていない。	現状に応じた防災マニュアルがある。	6-34-6 ウに同じ。	防災マニュアル
6-34-9 万が一の災害が起きた場合に備えた保険等の処置は十分なものとなっているか	5	店舗総合保険に入っている。	建物及び実習機材、資財迄の補償がされている。学生についての補償は、学生傷害保険に加入をさせている。		

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
6-34-10 防災訓練を実施しているか	1	平成30年度には、教職員全体に対しては、外部より講師を招き防災啓発（講習会）を行う計画を立てた。	しかしながら、開催日が台風で中止となり、それ以降、全体調整が取れず未開催のままである。	6-34-6 ウと同じく、平成31年度内に、改めて防災啓発（講習会）計画する。	

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
防災士、及び施設の防火管理責任者、営繕（2名）を配置し、備蓄も保管している。また、防災マニュアルを作成したものの、それに基づく研修会や訓練の実施が出来ておらず、今後は全教職員への防災啓発を始めとして、非常時に対応出来る体制を整えて行く必要がある。	

最終更新日付	2019年03月31日	記載責任者	浜野哲二
--------	-------------	-------	------

基準 7 学生の募集と受け入れ

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>創立 120 余年を迎え、多数の卒業生の活躍もあり各業界からは伝統と実績のある学校として信頼されている。その実績等を正確に学校案内等にも掲出している事から、志望者にも安心して進学出来る学校としての評価もあり、学生募集に大きく良い影響を与えている。近年では、学校案内・学校ホームページをリニューアルし、各媒体との内容も統一している。次に、学生募集活動に当たっては、大阪府専修学校各種学校連合会と高等学校進路指導協議会との遵守事項に沿って行っている事から問題はない。尚、学校の内容をより理解して貰う機会として、「オープンキャンパス」や「学校説明会」の開催、また、「個別の相談」にも対応している。その他の機会では、代理店主催の「高校ガイダンス」等にも参加し、志望対象者に正確な情報を提供している。また、その延長線上として本校を受験する者に対して、本人の資質による公平な選考を行っており、この選考結果に対する不満の声は聞いていない。</p>	

7-35 学生募集活動は、適正に行われているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
7-35-1 学生募集活動は、適正に行われているか	5	大専各と高等学校進路指導協議会との遵守事項に沿って学生募集活動を適性に行っている。	遵守事項の中で特に重要で有る願書受付の時期等について厳守している。		学生募集要項 (8ページ)
7-35-2 学校案内等は、志望者・保護者等の立場に立った分かり易いものとなっているか	5	学校案内等では、実際に基づいた表現(表記)をしており、志願者のみならず、保護者にも分かり易い内容となっている。	例えば、各学科等の紹介は当然の事ながら、修学に必要な学費等もすべて明記している。		学校案内 学生募集要項 (9~10ページ) 学校 HP
7-35-3 志望者等の問い合わせ・相談に対応する体制があるか	5	入学案内の専属担当者が窓口となり、相談内容に応じて学科担当の教員も同席できる体制を取っている。	事務スタッフの中に、入学案内の OCT 専属担当者(2名)、それ以外に全体広報担当者(5名)が在職している。		学園教職員名簿
7-35-4 募集定員を満たす募集活動となっているか	3	募集定員を満たすべく活動を行っているが、定員を超える学科も有るが、一部の学科については、定員を満たせていない。	設備環境デザイン学科で、1年生(充足率56%)、2年生(充足率44%)である。	設備環境デザイン学科の学生募集を停止し、建築学科内に設備専攻、設備コースとして、建築設備を希望する者に対応する。	2020年度学生募集用の学校案内、学生募集要項に明記。

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
全体的に学生募集活動は適正に行われている。また、学校案内や学生募集要項を基に、その他に掲出する媒体(学校HP、スマートフォンHP、進学情報誌等)での表現は統一しており、志望者等に誤解を招かないように伝えている。また、学生アンケート調査結果をベースに、弱みを改善し学校の強みとして広報活動を展開している。	

7-36 就職実績、資格取得実績、卒業生の活躍の教育成果は、学生募集に貢献したか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
7-36-5 就職実績、資格取得実績、卒業生の活躍の教育成果は、学生募集に貢献したか	5	各学科とも就職率は高くまた、建築士専科生の2級建築士合格率も全国平均を上回る結果を残している。更に卒業生の活躍も含めて学校案内や学校HP等を通じて掲出している事で学生募集に貢献していると言える。	入学者アンケートの結果、入学を決定した理由では「就職支援体制や実績が良い」が5点満点で4.4点、「資格取得実績」が4.3点と評価が高い。業界就職率100%を経年継続しており、大手企業からの求人も増加している。		進路状況のまとめ 入学者アンケート
7-36-6 卒業生の活躍の教育成果が学生募集に貢献したかどうか正しく認識する根拠を持っているか	5	卒業生からの紹介により本校を認識した者も多く、入学者アンケートでも、卒業生の紹介や評判で、入学を決断したと判断できる。	入学者アンケートの結果「卒業生が活躍している」が5点満点で4点、他の学校に比べて評判が良い」が4点と卒業生の評価も高く、家族や卒業生、高校教員からの紹介も全体の25%と高い		入学者アンケート

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
創立 120 余年の歴史も有り、多数の卒業生が業界で活躍している様子を学校案内等に掲出しており、志望者にとっては大きく学生募集に貢献していると思われる。	

最終更新日付	2019年03月31日	記載責任者	吉松 秀典
--------	-------------	-------	-------

7-37 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
7-37-7 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	5	受験者の個人的な事情は一切加味せず、人物本位での面接と筆記試験（※入試方法によっては筆記試験なし）に基づいて、入試判定会議を開き公正な合否判定を行っている。	合格者は勿論のこと不合格者からも合否判定に対する不満の声は聞いていない。入学志願書には、国籍や保護者名を記載する欄を設けていない。		入学志願書 A 入試判定資料
7-37-8 入学選考に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか	5	経年に於いて、学科毎に受験者の判定結果（合格者数・不合格者数、及び判定記録）を残している。	過去5年間の判定結果は事務課で資料及びデータで保存している。		入試判定資料

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
入学選考は、受験者の資質を見極めた合否判定としている事から、その結果について、特に受験生から不満の声を聞いていない。	

7-38 学納金は妥当なものとなっているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
7-38-9 学納金は、教育内容、学生および保護者の負担感等を考慮し、妥当なものとなっているか	5	学納金については、社会情勢を踏まえて毎年検討を重ね、必要に応じて変更を行っている。	同分野の学校とも年間学費額には、あまり差異が出ていない事からも妥当なものと言える		学生募集要項 (9～10ページ)
7-38-10 学納金に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか	5	経年に於いて、学生募集要項を保管しており、その推移は過年度分を見れば分かるようにしている。	保存期間の過去5年間の学生募集要項は事務課で保存している。		学生募集要項

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
同分野他校とも年間学費額にはあまり差異がなく、学納金はここ数年変動していない。	

基準 8 財務

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>中長期的に財務基盤は安定しており、その主要となる財務数値は正確に把握出来ているが、今後も更なる安定を目指して、教育研究経費や管理経費両面に於いて、なお一層の経費節減の努力が必要である。次に、年度予算は目的、目標に照らし有効かつ妥当なものとなっており、概ね予算書に従って科目毎に適正かつ計画的に執行しているが、一部の科目に於いて予算通りとならない場合は、補正予算を組み当該年度内で完了するようにしている。また、財務の会計監査は、私学振興助成法に基づく公認会計士による監査（決算監査・月次監査）、及び私立学校法に基づく監事監査（決算監査）を毎年適切に実施しており、会計監査を受ける側・実施する側の責任体制、監査の実施スケジュールも妥当なものとなっている。現在は、財務情報の公開に対して、「財務書類等閲覧規程」に基づき公開するに当たっての体制等を整備しており、方法、考え方を明示しており、大阪保健医療大学(OHSU)のHP上(Web サイト)でも資金収支計算書、消費収支計算書及び貸借対照表の大科目、監事の監査報告書、事業報告書、及び経年比較表等関連資料も追加し公開している。尚、平成 27 年予算からは、新学校法人会計基準に基づき、作成しており、平成 29 年決算書も新学校法人会計基準に基づき作成した。</p>	

最終更新日付

2019 年 03 月 31 日

記載責任者

伊東 和幸

8-39 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
8-39-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	5	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえる。	長期の負債もなく、比較的安定的に財務運営を行うことが出来ている。		中期計画（3ヶ年計画） 資金収支計算書 消費収支計算書
8-39-2 主要な財務数値に関する情報とその推移を正確に把握しているか	5	主要な財務数値に関する情報とその推移を正確に把握している。	最近数年（5年以上）の収支データ（収支計算書）は身近に有り、その推移を正確に把握できている。		過去5ヶ年の収支計算書 （財産目録含む）

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
中長期的に財務基盤は安定しており、その主要となる財務数値は正確に把握出来ているが、設置校3校の3ヶ年計画を確実に実施に移すことにより、今後も学園全体の黒字決算を維持していきたい。	

最終更新日付	2019年03月31日	記載責任者	伊東 和幸
--------	-------------	-------	-------

8-40 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
8-40-3 年度予算、中期計画は、目的・目標に照らして、有効かつ妥当なものとなっているか	5	年度予算は、目的、目標に照らし、有効かつ妥当なものとなっていると言える。	当年度の執行予定、及び過去2～3年の科目別執行状況を参考にしており、適正かつ妥当な予算となっている。		過去5カ年の収支計算書 予算書
8-40-4 予算は計画に従って妥当に執行されているか	5	概ね予算に従って、妥当に執行されている。	予算書に従って、科目毎に適正かつ計画的に執行している。		過去5カ年の収支計算書 予算書 中期計画（3ケ年計画）

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>年度予算は、目的、目標に照らし有効かつ妥当なものとなっており、概ね予算書に従って、科目毎に適正かつ計画的に執行している。除中退率は、ここ数年改善傾向にあったが、今年度は1年次の除中退が学生の質の変化もあり、悪化してしまった。次年度より学科長会議を新設し、除中退対策により力を入れることにより、予算通りの収入を確保したい。なお、一部に於いて予算通りとならない場合は、補正予算を組み当該年度内で完了している。</p>	

最終更新日付	2019年03月31日	記載責任者	伊東 和幸
--------	-------------	-------	-------

8-41 財務について会計監査が適正におこなわれているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
8-41-5 財務について会計監査が適正におこなわれているか	5	毎年、財務について会計監査が適正に行われている。	私学振興助成法に基づく公認会計士による監査（決算監査・月次監査）、及び私立学校法に基づく監事監査（決算監査）を毎年適切に実施している。		監査スケジュール 公認会計士及び監事の監査意見書
8-41-6 会計監査を受ける側・実施する側の責任体制、監査の実施スケジュールは妥当なものか	5	会計監査を受ける側・実施する側の責任体制、監査の実施スケジュールは妥当なものとなっている。	毎年、法人室が責任部署として、監査スケジュールを公認会計士及び監事と打合せの上、適切に定めている。		監査スケジュール

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
財務の会計監査は、私学振興助成法に基づく公認会計士による監査（決算監査・月次監査）及び私立学校法に基づく監事監査（決算監査）を毎年適切に実施しており、会計監査を受ける側・実施する側の責任体制、監査の実施スケジュールも妥当なものとなっている。また、できる限り公認会計士と学園監事の意見交換ができる場の設定も行っている。	

最終更新日付	2019年03月31日	記載責任者	伊東 和幸
--------	-------------	-------	-------

8-42 財務情報公開の体制整備はできているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
8-42-7 私立学校法における財務情報公開の体制整備はできているか	5	私立学校法における財務情報公開の体制整備はできている。	財務情報の公開に対して、「財務書類等閲覧規程」に基づき、公開するに当たっての体制等を整備し、学園全体の諸データを大阪保健医療大学のホームページにて公開すると共に OCT ホームページにもリンク先の表示を行っている。		財務書類等閲覧規程 資金収支計算書 消費収支計算書 貸借対照表 事業報告
8-42-8 私立学校法における財務情報公開の形式は考えられているか	5	私立学校法における財務情報公開の形式は考えている。	財務情報の公開に対して、「財務書類等閲覧規程」に公開するに当たっての方法、考え方を明示している。		財務書類等閲覧規程 資金収支計算書 消費収支計算書 貸借対照表 事業報告

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
財務情報の公開に対して、「財務書類等閲覧規程」に基づき公開するに当たっての体制等を整備しており、方法、考え方を明示している。また、大阪保健医療大学（OHSU）のホームページ上（Web サイト）で公開している。（経年比較表等関連資料も追加し公開している）	

最終更新日付

2019年03月31日

記載責任者

伊東 和幸

基準 9 法令等の遵守

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>法令や設置基準等の遵守と適正な運営については、専修学校設置基準、各種学校規程、その他の関係法令のほか大阪府私立専修学校・各種学校設置認可等に関する審査基準による認可を受けており、学則等に変更が生じた場合は、その都度、届出を行っている事からも適正な学校運営を行っていると言える。しかしながら、学生に対しては、入学、進級時のガイダンスに於いて学則の抜粋を記載した学生便覧での啓発活動に留まっている。</p> <p>次に、個人情報に関する保護と対策については、学園として P マークの認証を平成 18 年 12 月～平成 24 年 12 月の期間取得していたので、その個人情報保護に関するマニュアルや各種規定の下に管理体制を整えているため問題はないと判断出来る。平成 27 年には、TCE 財団により新設された SP マークの外部審査も受信し、適合との評価を得ることができた。なお、教職員には定期的に研修を実施し、学生には CM を通じて日頃より啓発活動（特に、外部実習前には研修を実施）を行っている。</p>	

9-43 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
9-43-1 法令や専修学校設置基準等が遵守され、適正な運営がなされているか	5	広く社会の信頼を得るべく法令や専門学校設置基準を遵守し、適正な学校運営を行っている。	専修学校設置基準、各種学校規程、その他の関係法令のほか大阪府私立専修学校・各種学校設置認可等に関する審査基準による審査の上、認可を受けた学校である。また、学則等に変更が生じた場合は、その都度、適正に届出を行っている。		学校設置認可書 学則変更届
9-43-2 法令や専修学校設置基準等の遵守に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか	2	教職員・学生等に対して、ガイダンス、教職員研修で一定の啓発活動は実施している。	学生に対しては、入学、進級時のガイダンスで学則抜粋を記載した学生便覧に基づき啓発活動を実施している。また教職員に対しては、年1度の教職員研修で啓発活動を行っている。	引き続きより充実した啓発活動となるよう検討の必要がある。	学生便覧 教職員研修資料

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
専修学校設置基準、各種学校規程、その他の関係法令のほか大阪府私立専修学校・各種学校設置認可等に関する審査基準による認可を受けており、学則等に変更が生じた場合は、その都度、届出を行っている事からも適正な学校運営を行っていると言える。しかしながら、教職員や学生等に対する法令や専修学校設置基準等の遵守の啓発活動は十分とは言えない。	

9-44 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
9-44-3 志願者、学生や卒業生および教職員等学校が保有する個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	5	福田学園として、平成 18 年 12 月～平成 24 年 12 月までの期間で P マークの認証を取得していたので、志願者、学生や卒業生及び教職員等学校が保有する個人情報に関し、その保護のための対策をとっている。	個人情報保護のためのマニュアル、各種規定を制定すると共に、学生、教職員全員から個人情報収集同意書（教職員については秘密保持誓約書も）を取っている。		個人情報保護マニュアル 各種規程 個人情報収集同意書 秘密保持誓約書
9-44-4 個人情報に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか	5	9-44-3 のアと同じく個人情報に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施している。	教職員研修時に個人情報保護研修を行っている。また、学生に対しても、入学志願書、学生便覧等で啓発を行っている。		研修資料 学生便覧（75 ページ） 学生募集要項（14 ページ）

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
平成 18 年 12 月～平成 24 年 12 月の期間で P マークの認証を取得したことで、そのマニュアルや各種規定に基づき個人情報保護の管理体制を整えている為に問題はない。平成 27 年には、TCE 財団により新設された SP マークの外部審査を受け、適合との評価を得ることができた。また、教職員には研修、学生には学生便覧等で啓発活動を行っている。以上の事から個人情報保護の対策は取られていると判断出来る。	

最終更新日付	2019 年 03 月 31 日	記載責任者	伊東 和幸
--------	------------------	-------	-------

基準 10 社会貢献

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>地域の各種団体（行政・企業等）の連携では、大阪市（北区）と地域住民の方々との街づくり提案をはじめ、不動産会社や経営コンサルティング会社との連携で店舗やマンションのリフォーム提案などを行っている。また、学校の資源（教室や施設等）を活用する事では、各種資格試験団体の貸し教室として提供している。更には、毎年、日本建築学会（近畿支部）が主催する研究発表会には最優先として校舎を開放している。</p> <p>次に、ボランティアに関しては、学生の多くがアルバイトを優先的に行っている現状からボランティア活動の推進ができていない。今後の検討事項としては、併設校である大阪保健医療大学、大阪リハビリテーション専門学校と連携し、医療・介護施設の現状を知る事で、バリアフリー化や先端医療機器など建築・福祉機械等に関する現状を体感し、ボランティアと兼ねる機会として捉え、教育カリキュラムに落とし込む検討を行う。</p>	

最終更新日付

2019年03月31日

記載責任者

浜野 哲二

10-45 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
10-45-1 広く教育機関、企業・団体、及び地域との連携・交流を図っているか	5	行政機関、民間企業、周辺施設などと共同した各種実習やコンペ参加を推進しており交流が図られている。	大阪市（北区）と地域住民の方々との街づくり提案をはじめ、不動産会社や経営コンサルティング会社との連携で店舗やマンションのリフォーム提案などを行っている。		各種企画書
10-45-2 学校の資源を活用し、生涯学習事業や雇用促進への支援を行っているか	4	土曜・日曜や長期休暇期間には、各種資格試験団体等からの依頼を受けて貸し教室として提供している。	平成 30 年度も、例年依頼を受けている団体を含め、数団体に貸し出し実績あり。	雇用促進については、以前に、大阪府より委託事業を受託し支援を行っていたが、現在、平日（昼間）での空き教室がない事から実施できない現状にある。	貸し教室記録
10-45-3 学校の施設・設備を開放するなど、地域社会と連携しているか	5	毎年、日本建築学会（近畿支部）が主催する研究発表会の会場として校舎を開放している。	例年 6 月の土曜・日曜の 2 日間に亘って開催され、年度当初より最優先に校舎を確保し提供している。		研究発表会の開催要項
10-45-4 諸外国の学校などと連携し、留学生の相互の受け入れ、共同研究・開発を行っているか	NA				

10-45-5 重要な社会問題について、学生や教職員に対し啓蒙活動を行っているか	3	人権問題については、2018年度人権教育・指導計画書に基づき実施している。	同和問題・障害者の人権・個人情報・就職時の人権課題について実施している。	いじめの問題やハラスメント、また薬物等についても必要性があり、教職員には研修会を通じて、また学生にはキャリアガイダンスの時間を利用して、引き続き啓発して行く。	2018年度人権教育・指導計画書
10-45-6 学校として重要な社会問題に具体的に取り組んでいるか	3	教職員には研修会、学生には担任を通じて、キャリアデザインの時間で取り組む体制を整えている。	大専各等で開催された研修内容を全教職員で共有し、また、学生に対しては必要に応じた内容で啓発している。	10-45-5ウの内容に同じ。	大専各等の研修案内

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
地域の各種団体（教育機関・行政・企業等）とは、コンペへの参加や企業内研修、そして教職員対象講座等で、学校の資源（人・物）を活用し連携を図り、また支援を行うことで社会貢献の一端を担っている。	

最終更新日付	2019年03月31日	記載責任者	吉田 裕彦
--------	-------------	-------	-------

10-46 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
10-46-7 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	1	積極的には、奨励も支援もしていない。	大きな震災等が発生した時に、各種団体からの要望により、学生のボランティア案内を行う程度である。	併設校である医療分野の大学や専門学校と連携する等をし、医療・介護施設等での学生ボランティア活動について検討して行きたい。	
10-46-8 学生のボランティア活動の状況を把握しているか	NA				

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
併設校である大阪保健医療大学、大阪リハビリテーション専門学校と連携し、医療・介護施設の現状を知る事で、バリアフリー化や先端医療機器など建築・機械に関する現状を体感する事も視野に入れて、学生ボランティアと兼ねる機会設定の検討を行う。	

基準 1 1 国際交流

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>点検中項目総括に同じく、外国人留学生の受け入れや学内での体制は適切に行っており、大きなトラブルは起こっていない。しかし、交換留学を始めとする戦略的な国際交流を図る取り組みについては、法的な問題だけでなく異国の文化や習慣の問題もあり、今後は十分な検討を慎重に重ねていく。</p>	

11-47 留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
11-47-1 留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3	外国人留学生の受け入れについては、計画的に行っているが、派遣までの施策を持つての国際交流は行っていない。	日本国内での日本語学校からの受け入れを基本としており、原則、海外からの直接受け入れは行っていない。	外国の学校との提携による受け入れ・派遣については、色々な体制整備も必要であるため、まずは配置した専任職員の経験値を高める必要がある。	外国人留学生在籍名簿
11-47-2 受入れ・派遣等において適切な手続き等がとられているか	5	外国人留学生の受け入れに於いて、適切な手続き等を取っている。	文科省が定める基準（入学資格）の下、入学選考を行い、入国管理局には、年4度の定期報告を行っている。		大阪入国管理局平成 24年 10月 1日発行の書類 学生募集要項（6ページ）
11-47-3 学習成果が国内外で評価される取組みを行っているか	NA				
11-47-4 学内での適切な体制が整備されているか	4	外国人留学生に対応できる専任職員を配置し、体制を整えているが、まだ十分と言えない。	留学・就労等のビザ取次申請ができる外国人留学生担当者（入学相談・生活指導・進路指導を含む）がいる。	11-47-1 ウに同様、専任職員の経験値を高めることから進める。	ビザ取次申請者（在職）

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
外国人留学生の受け入れや学内での体制は適切に行っており、大きなトラブルは起こっていない。しかし、交換留学を始めとする戦略的な国際交流を図る取り組みについては、法的な問題だけでなく異国の文化や習慣の問題もあり、今後は十分な体制を整えて慎重に進めて行く。	

基準 1 2 自己点検・自己評価、第三者評価

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>平成 21 年度より項目を絞って自己点検・自己評価を実施し、平成 22 年度には、私立専門学校等評価研究機構の「自己点検ブック」全項目に亘って実施した。しかしながら、問題点が全て迅速に改善出来るものばかりではなく、これまで通り優先順位（重要項目）を付けて、計画的に改善する必要性を感じている。また、平成 30 年度も文科省「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき全項目について実施し、その後、学校関係者（求人企業等）からの評価を受け、その結果を併せて公開した。</p>	

最終更新日付

2019 年 03 月 31 日

記載責任者

浜野 哲二

12-48 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
12-48-1 自己点検・自己評価を定期的に実施し、問題点の改善に努めているか	4	平成 22 年度より私立専門学校等評価研究機構の「自己点検ブック」に基づき全項目に亘って実施しており、また、平成 25 年度からは文部科学省のガイドラインに沿って実施している。	職業実践専門課程の申請時に作成した『自己点検・自己評価シート』が存在する。問題点の改善については、優先順位を確認しながら進めている。	問題点の改善に、優先順位を付けながら進めるも、中には高額な経費を要するものもある。その場合は、中期計画を立てて順次進めている。	自己点検・自己評価シート
12-48-2 自己点検・自己評価に関する方針は確立されているか	5	自己点検・自己評価に関する方針は確立している。	自己点検・自己評価委員会を組織した上で、問題点の改善に向けた進捗状況を運営会議で確認している。		委員会組織表 運営会議議事録
12-48-3 自己点検・自己評価に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか	5	運営会議のメンバーが、関係者である事から、正確に伝わっている。	12-48-3 アに同じ		

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
平成 22 年度に私立専門学校等評価研究機構の「自己点検ブック」全項目に亘って実施していたが、平成 25 年度に於いて、改めて文科省「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき全項目について見直しを実施した。しかしながら、問題点すべてを迅速に改善出来るものばかりではなく、平成 30 年度に於いても、優先順位（重要項目）を付けて、計画的な改善を行った。	

12-49 自己点検・自己評価結果の公開はしているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
12-49-4 自己点検・自己評価結果は公開しているか	5	自己点検・自己評価結果を公開している。	平成 30 年度も継続して、ホームページに掲載している。		学校 HP 情報公開 (TOP ページ 上部)
12-49-5 自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は確立されているか	5	自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は確立している。	職業実践専門課程の認定に伴い、毎年度、更新して公開 (10 月頃) する事としている。		学校 HP 情報公開 (TOP ページ 上部)
12-49-6 自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか	5	運営会議を通じて、関係者に伝えている。	12-49-6 アに同じ		

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)
平成 30 年度も、文科省「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき全項目について実施し、関連企業等の学校関係者評価も併せて、その結果を公開している。	

12-50 第三者機関による学校評価を受ける予定・方針は確立されているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
12-50-7 学校は、今後実施される第三者機関による学校評価を受ける予定か	NA				
12-50-8 第三者評価に関する方針は確立されているか	NA				
12-50-9 第三者評価に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか	NA				

* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）

最終更新日付

2019年03月31日

記載責任者

浜野 哲二